

奥会津だより

第46号
2008年春

今も暮らしに生きる道具をシリーズで紹介しします。-No.11 カンジキ-



若林 美緒ちゃん(只見町)

若林 美緒ちゃん(只見町)

カンジキ

カンジキは雪国の履物として今も必需品で、ツルカンジキ、マルカンジキ、コカンジキ、ツメカンジキと、用途によって多様な顔を持つ冬の道具である。写真は、雪解けも近い頃、堅雪の上を歩いたり木を伐り出したりするときに使うツメカンジキ。杉枝を楕円形に曲げた両側には滑り止めの爪(木製)が取り付けられている。雪に足をとられてもすみやかに脱げるような工夫もされている。材質も形状もさまざまなカンジキ作りは、夏の間に作るものだといわれた。



歳時記の郷 奥会津

なつかしい風景

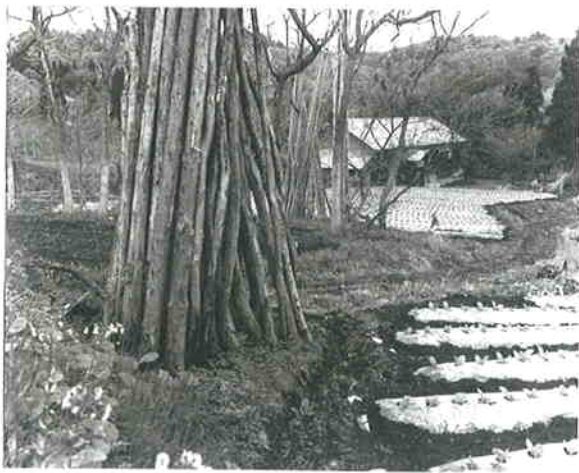
◆ 今に続く暮らし

写真・文 竹島善一

昭和40年代後半より現在まで
奥会津各地の暮らしを写真で
記録している。(東京在住)



昭和54年4月 柳津町・五疊敷
地名に惹かれて訪れたのが五疊敷の集落だった。西山温泉から小さな山越えの途中にあり、眺望がよい。
雨に濡れた村中の通りは、地形に逆らわず勾配がついて曲がり、道も景色になってくれた。



昭和56年5月 柳津町・石坂
会津にあった沢山の分校の中でも、石坂の分校は小さく可愛かった。
山肌に沿った田の畦道を登っていくと、校舎の白い屋根が風景のアクセントとなってひとときの主張があった。石坂の棚田も大きく圃場整備されたが、今では分校もタバコ耕作も見られない。

「沼田街道」「会津西街道」といった昔の主要街道は現在「国道49号線」「国道400号線」といった数字が道路名になっている。自動車専用の高速道路は、ただ距離を稼ぐだけの施設で、そのサービスイリアは昔なら街道筋の茶店といったところか。人口当たりの自動車保有数は、会津では東京の数倍はある。ここではひとを探すには車を探せばよいくらいだ。

増えた車は人々の生活はもとより景観も変える。どんな僻村の一軒家へも、車は舗装された道路で着ける。

片や隣家への小路、裏山へ分け入る山道は、人の気配が薄れてゆく一方に見える。
私の親は道路のことを「通り」「往来」と言っていたが、人の行き来があつてこそ「道」である。人が踏みしめてできた土の道は、足に優しく、その感触は身体が覚えていた古い記憶につながつてゆく。毛細血管のようにすみずみにゆきわたり、人と人、物と人とのやりとりを支えてきた小さな土の道は、めつきり寂しくなってきた。

奥会津

つれづれ

三月。かた雪の季節だ。水分を含んだ雪の表面が明け方の冷え込みで大地のように堅く締まり、自由自在に歩くことができなつかの間のときは、とりわけ心はずむ。

休日晴れた寒い朝、そりを片手に家を出る。かた雪の具合を確かめてみる。OK!。家の近くのとつておきのスポットへ急ぐ。傾斜を登り、そりにまたがる。朝陽の中、滑りだす。どこまでも、そりが行くところまで。そして、そりで滑った道のりを歩いて戻り、また滑る。朝食を食べるのも忘れ、かなりの時を過ごし、家へと帰る。そんな思い出が私の気持ちを浮き立たせる。今の子供たちも同じようなことをするのだろうか。今度、小学生の娘と童心に還って、そりに乗り遊んでみようと思う。かた雪わたりができなくなる頃、春の息吹が感じられ、ここから、一斉に緑が芽吹く。その様はまるで、魔法の杖を一振りしたかのようで、色彩のコントラストが美しい。

そんな奥会津の春は、もうすぐ。(み)

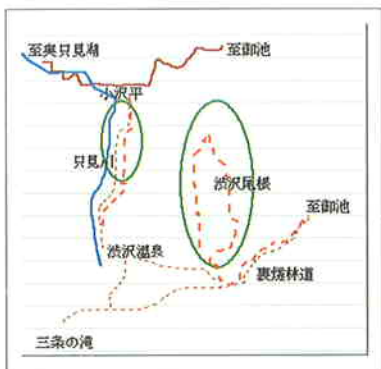
写真と文・坪田和人



尾瀬・小沢平

尾瀬は山岳美のデパートとも云われている。名山、湖沼、溪谷、滝、高層湿原、高山植物など、どれをとっても第一級のものを持っているが、ブナ林でも第一級のブナ林を有している。その代表がブナ平と、小沢平のブナ林だ。尾瀬の御池から奥只見湖側には檜枝岐村の開拓地がいくつかある。その中の一つが小沢平だ。ブナ林の入り口付近は只見川のすぐ側で水気が多いせいかトチが混じった森であるが、幹周り5mクラ

スの巨木もある。ブナはその台地より一段高い位置にある河岸台地に鬱蒼と茂っている。ブナは幹周り3mクラスの大木もあるが1〜2mの樹が主体だ。この只見川は北側に向かって流れているため太陽光が射し込む時間が短いせいであろう。ブナは電信柱のように途中に枝を出さずにスックと立ち上がっているのが特徴だ。ブナの背丈は30mくらいあるだろう。小沢平は手つかずの原生林なので森の中にはササが侵入しておらず、ブナ林内を自由に歩き回れる。ここには尾瀬の三条の滝から渋沢温泉を経由して登山道が付けられている。尾瀬の登山道では珍しく木道が敷かれていない。この道歩く人がそれだけ少ないことを物語っている。



◆著者プロフィール
1942年生まれ。ブナをライフワークテーマとする。日本全国約500ヶ所のブナ林を訪ね歩いてきて、ブナの山脈（山と溪谷）を出版。会社生活を卒業後は、ブナライフに徹するために生活拠点を会津若松市に移し、奥会津や東北各地のブナ林巡りを続けている。



手遊びの唄は、とりわけ女の子の子の中でいねいに伝承されてきた。手鞠やお手玉などの素朴な遊具は、いつも唄を纏っていた。

シイシイシイバラリトセ（手遊び）

- 一ツ ひよこが 豆食べて タイノコタイ
- 二ツ ふねには 船頭さんが タイノコタイ
- 三ツ みせには ばんとうさんが タイノコタイ
- 四ツ よこはま ベッピンさんが タイノコタイ
- 五ツ 医者には 葉びんが タイノコタイ
- 六ツ 昔は チョンまげゆって タイノコタイ
- 七ツ なぎ虫 はちがさして タイノコタイ
- 八ツ 山には コンコンさんが タイノコタイ
- 九ツ コジキが おわんもって タイノコタイ
- 十に 殿様 お馬にのって タイノコタイ
- 十一 巡査が 剣下げて タイノコタイ
- 十二 兄さん 新聞よんで タイノコタイ
- 十三 さんばが ややだいて タイノコタイ
- 十四 新年おめでとごこさいます。

伝承者・昭和村 栗城ナミ子（七十歳）

**奥会津7町村の
こだわり温泉25ガイドブック
「ゆき湯」が発行!**

詳しくは…
只見川電源流域振興協議会事務局
☎0241(82)5220 まで

方言クイズ

クイズに答えて奥会津の地場産品を買おう!
問題: 次の方言の意味は何でしょう?
「やや」

ヒント: 手あそび頃をご参照ください。
正解者の中から抽選で1名様に柳津町地場産品をプレゼントいたします。
●応募方法: 官製ハガキに奥会津だよりの感想、住所、氏名、電話番号を明記の上、答えをお書きください。
●あて先: 〒969-7511 福島県大沼郡三島町大字宮下字中乙田979 奥会津書房 宛
●応募締切: 2008年3月20日消印有効
※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。
※クイズの答えは次号47号で発表いたします。
◎45号「まにやせる」の答え: 間に合わせる
たくさんのご応募ありがとうございました!

地元記者の目

春の足音…?

テレビをつけると、春の便りが聞こえてくる頃になりましたが、ここ奥会津では、まだまだ冬。春にはちょっと早い微妙な感じ。

そんな訳で、南郷スキー場にせつせと通い、家の前でも、除雪で高く積まれた雪の山で、我が子と「げすぞり」をして遊んだり、軒から垂れ下がる「かなつくり(つらら)」を折って遊んだり…。

折角この地域に住んでいるのですから、積極的に「雪」を楽しむ生活を送っています。

そしてこれから迎える遅い春。雪の合間から「びんばな(ふきのとう)」が顔を出し、黄色い福寿草が白の世界に色をつけてくれます。山里にも徐々に、様々な「山・川の恵み」があふれる様になり、厳しい寒さの分、「ばーん」と、はじけるような生命感に地域全体が包まれます。

ほか者の私にとって感じる奥会津のすばらしさは、今は失われつつある自然や四季が、「当たり前」に残っていること。植樹された公園の桜並木より、裏山に咲くカタクリの大群生や、在来種のタンポポの群生の方が、心惹かれるものが多いです。

「季節を楽しむ」この地域に住む人にとって最大の特権かもしれませんね。

かたくり
そり
下がる「かなつくり(つらら)」を

福寿草

奥会津だより地元記者
南会津町南郷地区
脇坂育弘

3月 4月 5月 6月 奥会津イベント情報

三島町 第27回三島町生活工芸品展

◆日時 平成20年3月15日(土)、16日(日)
◆場所 生活工芸館
◆問合せ 生活工芸館 ☎0241(48)5502

三島町 第7回全国編組工芸品展

◆日時 平成20年3月15日(土)~23日(日)
◆場所 生活工芸館
◆問合せ 生活工芸館 ☎0241(48)5502

柳津町 ミニ尾瀬フィッシングパーク開設

村内宿泊者限定イベント
解禁前に特設「ミニ尾瀬フィッシングパーク」で岩魚釣り
◆日時 平成20年3月22日(土)~24日(月)午前9時~午後3時
◆場所 檜枝岐村ミニ尾瀬公園内
◆参加料 3,000円(釣り放題)
◆問合せ 尾瀬檜枝岐温泉観光協会 ☎0241(75)2432

金山町 渓流釣り解禁

◆日時 平成20年4月1日(火)より9月30日(火)まで
◆場所 只見川・野尻川・沼沢湖(ヒメマス)
◆参加料 各漁協の入漁券を遊漁承認証取扱所にて、お買い求め下さい。
◆問合せ 金山町地域振興課商工観光係 ☎0241(54)5327
◆メール kanko@town.kaneyama.fuushima.jp

只見町 要害山トレッキング

◆日時 平成20年4月中旬
◆問合せ 只見観光まちづくり協会 ☎0241(82)5250

金山町 妖精美術館「吉川深人形企画展」、沼沢湖周辺施設オープン

◆日時 平成20年4月26日(土)
◆場所 金山町沼沢湖キャンプ場(平日の水曜休)、妖精美術館(平日の水曜休)、椎名誠写真館(土日祝日の営業)
◆問合せ 金山町地域振興課商工観光係 ☎0241(54)5327
◆メール kanko@town.kaneyama.fuushima.jp

昭和村 奥会津昭和の森キャンプ場オープン

◆日時 平成20年4月26日(土)予定 9時~
◆場所 昭和村大芦 奥会津昭和の森キャンプ場
◆問合せ 奥会津昭和の森キャンプ場 ☎0241(57)2700

昭和村 からむし市

昭和村で栽培されたからむし(宇麻)を手績みした糸を用い、地機で織り上げた帯、テーブルセンターやのれんなど、手仕事の品々を展示即売します。開催の頃昭和村は遅い春を迎え、新芽が美しく、桜が咲く頃です。村のおばあちゃん・お母さんたちの冬期間の手仕事の結晶を是非ご覧ください。

◆日時 平成20年4月26日(土)~5月6日(火) 9時~16時30分
◆場所 からむし織の里「からむし工芸博物館」ロビー
◆参加料 無料
◆問合せ からむし工芸博物館 ☎0241(58)1677

風っ子会津只見号

◆日時 平成20年5月3日(土)、4日(日)、5日(月)
◆場所 只見線(会津若松~只見)

昭和村 博士山水芭蕉まつり

水芭蕉と白梅に囲まれた遊歩道があり、特設テントでは凍みもち、豚汁、飲物などの販売のほか、来場者全員に甘酒をサービスします。

◆日時 平成20年5月4日(日)10時~16時
◆場所 昭和村小野川地区 水芭蕉としらかばの杜
◆参加料 無料
◆問合せ 昭和村観光協会 ☎0241(57)3100

南会津町 第9回長卸山山開き

登り所要時間 1時間30分
◆日時 平成20年5月5日(月) 集合場所 木賊温泉・広瀬の湯前 集合時間 午前8時
◆場所 長卸山
◆参加料 無料
◆問合せ 南会津町観光協会 ☎0241(78)2546
◆メール tatekanrkou@tateiwa.org

柳津町 第43回 博士山山開き

柳津町の最高峰、標高1,482mの博士山の山開き。山開き当日は、先着500名様に記念パッチを贈呈するほか、最年長者賞、最年少者賞、遠来者賞、ミス博士賞などの表彰がある。

◆日時 平成20年5月18日(日) 午前8時30分・式典、午前9時15分・登山開始
◆場所 式典会場:博士山麓登山口
◆参加料 無料
◆問合せ 柳津町B&G海洋センター ☎0241(42)2246

S L 会津只見新線号

◆日時 平成20年5月24日(土)、25日(日)
◆場所 只見線(会津若松~只見)

昭和村 御前ヶ岳登山

登山入口から山頂まで約25km、ゆっくり歩いて往復3時間の道のりです。(山頂付近は、本格的な登山になります。)途中にはブナの原生林や紅梅御前と桜木姫伝説の史蹟などもあります。山頂からの眼前の博士山をはじめ磐梯山、飯豊山、那須連峰、燧ヶ岳など箱庭のように眺めます。

◆日時 平成20年5月25日(日) 9時から出発
◆場所 昭和村大芦 御前ヶ岳登山道入口
◆参加料 無料(保険は各自加入)
◆問合せ 昭和村役場産業建設課産業係 ☎0241(57)2117

三島町 志津倉山登山

◆日時 平成20年6月1日(日)
◆問合せ 三島町役場 産業建設課 ☎0241(48)5533

南会津町 第10回大嵐山・湯ノ倉山山開き

登り所要時間 3時間
◆日時 平成20年6月1日(日) 集合場所 湯ノ花温泉交流センター 集合時間 午前8時
◆場所 大嵐山・湯ノ倉山
◆参加料 無料
◆問合せ 南会津町観光協会 ☎0241(78)2546
◆メール tatekanrkou@tateiwa.org

南会津町 第10回大嵐山・湯ノ倉山山開き

登り所要時間 3時間
◆日時 平成20年6月1日(日) 集合場所 湯ノ花温泉交流センター 集合時間 午前8時
◆場所 大嵐山・湯ノ倉山
◆参加料 無料
◆問合せ 南会津町観光協会 ☎0241(78)2546
◆メール tatekanrkou@tateiwa.org

三島町 工人まつり

◆日時 平成20年6月7日(土)、8日(日)
◆問合せ 生活工芸館 ☎0241(48)5502

南会津町 田代山山開き

登り所要時間 1時間30分
◆日時 平成20年6月8日(日) 集合場所 猿倉登山口 集合時間 午前7時30分
◆場所 田代山
◆参加料 無料
◆問合せ 南会津町観光協会 ☎0241(78)2546
◆メール tatekanrkou@tateiwa.org

南会津町 七ヶ岳ドウダンツツジ見学登山

登り所要時間 1時間30分
◆日時 平成20年6月15日(日) 集合場所 会津アストリアホテル前 集合時間 午前8時
◆場所 七ヶ岳
◆参加料 無料
◆問合せ 南会津町観光協会 ☎0241(78)2546
◆メール tatekanrkou@tateiwa.org

奥会津だより無料定期購読のご案内 ご希望の方は事務局まで発送先(ご住所・お名前)をご連絡ください。 電話: 0241-82-5220 FAX: 0241-82-2117 問い合わせ先: 只見川電源流域振興協議会事務局 E-mail: webmaster@okuaizu.net

発行: 只見川電源流域振興協議会(柳津町・三島町・金山町・昭和村・南会津町(南郷、伊南、鎗岩地域)・檜枝岐村・只見町) 発行日: 3月10日発行(年5回発行) 事務局: 〒968-0421 福島県南会津郡只見町役場 総務企画課企画班内 TEL.0241-82-5220 http://www.okuaizu.net 編集: 奥会津書房 福島県大沼郡三島町宮下 TEL.0241-52-3580 ★只見川電源流域振興協議会は、福島県只見川流域の活性化と振興を図るために活動している団体です。 この冊子は電源立地地域対策交付金の事業により作成されています。